

前回WGにおいて次回までに整理するとした件について

●Well-being をめぐる状況について

<委員より意見>

- ・Well-being に関する調査は、(統計法でいう統計調査ではなく)満足度など意識に関する調査ではあるが、今の時代に必要なもの。ただし、客観性の問題についてどこまで扱えるのかということと、諸外国の満足度調査との整合性等も踏まえて検討していく必要がある。
- ・Well-being は重要な取組であるが、時系列の比較は重要ではなく、むしろ、日本人の平均的な Well-being がどういう構造になっているかを把握することに注力すれば、より価値が高まるのではないか。その意味では、基本計画に記載しなくても、内閣府の研究会等において、その構造が他国と比較してどのような違いがあるのか等といった、国際比較も視野に入れて引き続き検討を進めてほしい。
- ・Well-being は、第Ⅱ期基本計画作成時の審議でも、意識調査の基本計画での取扱いについて慎重な意見があって盛り込まれなかった経緯がある。結果数値の解釈等といった課題も解消していない中では、今回の基本計画に盛り込むべきかどうかも含め慎重に検討をした方がよい。
- ・Well-being について、政策的なニーズがあるのは分かるが、第Ⅱ期基本計画時に掲載が見送られた事情から変化がないのであれば、今回の基本計画に盛り込まれることには違和感がある。今回の基本計画に盛り込むのであれば、第Ⅱ期基本計画時と事情が変化したという説明が必要ではないか。

<検討結果>

Well-being に関する調査は、(統計法でいう統計調査ではなく)意識に関する調査であることに加えて、既に、内閣府と関係府省庁が連携して、Well-being に関する取組を推進しており、統計委員会が関与して推進していく必要性は低く、また、満足度調査の検討の自由度を保つためにも、次期基本計画に記載することを見送ることが適当ではないか。